

平成23年度(第28回) 地域づくり優良事例の概要

受賞名団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>春蘭の里実行委員会 (石川県能登町)</p> <p>http://www.shunran.info</p>	<p>春蘭の里実行委員会は、能登の農家の姿をありのままにみせる地元ならではの「もてなし」という概念のもと、奥能登の山に咲く春蘭に思いを込め「春蘭の宿」として農家民宿に取り組んでいる。農家民宿は平成21年から30軒となり、団体受け入れが可能ともなる農家民宿群を形成している。</p> <p>それぞれの民宿で得意とする炭焼きや米作りなどの農作業、風呂焚き、薪割りなどの昔の暮らしで行ってきたことを体験メニューに取り入れることや、地域に恵みをもたらしてくれる里山の価値を見直し、黒瓦と白壁の古民家が点在する美しい農村景観を有した里山の保全活動が取り組まれている。</p> <div data-bbox="598 616 965 907" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">里山に広がる田園風景</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>能登町ふ、0768- るさと振 62-8532 興課</p>
<p>しずくいし軽トラック実行委員会 (岩手県雫石町)</p> <p>http://www.shokokai.com/shizukuishi/truck.html</p>	<p>しずくいし軽トラック市実行委員会は、平成17年7月から軽トラックの荷台を使った野菜や惣菜、工芸品などの販売を行う軽トラック市をはじめ、毎年5月から11月の概ね毎月第1日曜日に、中心商店街の県道を歩行者天国にして開催しており、それにより人々の交流する空間が生まれ、商店街一丸となった賑わい創出活動につながっている。</p> <p>軽トラックを活用したイベントは、雫石町の取り組みが全国初であり、雫石町の「元祖軽トラ市」を手本にした軽トラック市の開催が各地で行われている。</p> <div data-bbox="598 1355 965 1646" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">歩行者天国で賑わう軽トラック市の様子</p>	<p>商店街の活性化</p>	<p>雫石町経 019- 営推進課 692- 2111</p>

<p>埴町ふるさと産業おこし連絡協議会 (福島県埴町)</p>	<p>埴町ふるさと産業おこし連絡協議会は、行政・商工団体・農業団体等が相互連携を取りながら、働きがいのある豊かな町づくりに寄与するため組織され、平成10年からは、「ダリア」の花を中心としたまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>平成13年に開催された「うつくしま未来博」にダリア園を出展したことが契機となり、老人会や小・中学校、町民の多くでダリアを咲かせる活動が行われ、ダリアを通して、お年寄りと子どもとの間で心の交流や指導といった生涯学習へと発展している。こうした団体の取り組みは、ダリアを活用した商品開発、切り花事業を展開した農業後継者の育成にもつながっている。</p>  <p>お年寄りからダリアの手入れ(芽摘み)の指導を受ける小学生</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>埴町まち 0247- 振興課 43-2112</p>
<p>清水港・みなと色彩計画推進協議会 (静岡県静岡市)</p> <p>http://www.shimizukou-shikisai.net</p>	<p>清水港は、昭和60年頃、富士山を背景とした豊かな自然景観を有しながらも、人工景観は戦後の経済活動で産業に特化し、殺伐とした港であった。平成4年度に発足した清水港・みなと色彩推進協議会は、産・学・官の連携のもと、美しい自然景観と調和した人工景観による「世界に誇れる美しい港づくり」に取り組み、カラーコーディネートによる港の景観計画を行っている。日本で初めて港にシンボルカラーを用い、アクアブルー・ホワイトを設定し、港への魅力を高め、住む人、働く人、訪れる人にとって快適・活力・魅力ある空間づくりに取り組んでいる。</p>  <p>清水港のコンテナクレーン (後景には富士山を配している)</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>静岡市経 054- 済局商工 354- 部清水港 2044 振興課</p>
<p>四国タオル工業組合 (愛媛県今治市)</p> <p>http://www.stia.jp</p>	<p>今治地方は、百十余年あまりの歴史を持つ日本最大のタオル産地であるが、長年にわたり自社製品を開発する自立提案型の産地ではなかったため、近年、安価な海外製品の大量流入を受け国内市場生産は減少傾向を辿り、産地としての弱体化が問題となっていた。</p> <p>こうした状況の中、四国タオル工業組合は、地元団体と連携し、伝統に裏付けられた技術力と高品質というものづくりの強みを活かし、官民一体で今治ブランドを構築・普及することにより、地場産業振興や地域人材育成を通じて、地元の経済を活性化させている。</p>  <p>若者の人材育成と製造技術の世代間の継承 (技能評価検定試験の様子)</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>今治市産 0898- 業振興部 36-1540 商工労政課</p>

平成22年度(第27回) 地域づくり優良事例の概要

受賞名団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>大地の芸術祭実行委員会 (新潟県十日町市)</p> <p>http://www.echigo-tsumari.jp</p>	<p>大地の芸術祭実行委員会は、アートによる独自のまちづくりと地域の活性化を目標に、平成12年に始まった「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を実施するために発足し、3年に一度現代アートの祭典を開催し、現在、平成24年の第5回開催のために活動しており、圏域内の多くの企業や商工団体、市民団体や住民の代表者から構成されている。</p> <p>大地の芸術祭を開催する目的は、アート作品を「里山の自然をみせるための装置」と位置づけ、作品を通じ、地域に内在する価値を掘り起こし、その魅力を高めることで地域の自立や魅力の発信をすることであり、展開される作品は通常的美術館とは異なり、住民との交流、協働の中から生み出される。</p> <div data-bbox="587 613 954 904" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">棚田のアート作品</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>十日町市 025- 観光交流 757- 課芸術祭 2637 推進室</p>
<p>東郷ふるさとおこし協議会 (福井県福井市)</p> <p>http://e-togo.ddo.jp/</p>	<p>東郷ふるさとおこし協議会は、平成3年3月に発足し、越前東郷の歴史と自然を最大限に活かしたまちづくり、住みやすく、暮らしやすく、訪れた人々に安らぎと喜びを与える空間づくりを目的に住民主体のまちづくりを行っている。</p> <p>住民総参加で地区民が一丸となって取り組む「おつくね祭」をはじめ、地区の中心を流れる堂田川周辺のまちなみを活かしたせせらぎコンサートやライトアップ、地区の情報発信や活動拠点、憩いの場として、古民家を改修し「おつくね茶屋」を整備・活用するなど、東郷の魅力を高め地区民の連帯感を強め、地域づくりに取り組んでいる。</p> <div data-bbox="592 1352 959 1644" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">堂田川のライトアップ</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>福井市市 0776- 民生活部 20-5300 市民協働 国際室</p>

<p>ネバーランド株式会社 (長野県根羽村)</p> <p>http://www.nebamura.jp/page013.html</p>	<p>平成5年に、村民有志50名が集まって村を元気にする方法を考え、「水」、「食」、「木」の3部会を立ち上げ、村内にある資源を活用し地域づくりの拠点として、平成8年に第三セクターにより設立した。</p> <p>ネバーランドは、地元酪農家で搾乳した生乳の加工、清水を使った堅豆腐やそば・うどんの製造、猟友会と連携し地元素材にこだわった新たな商品開発、地元産物の販売などを手がけている。乳製品等の自社製品については、学校給食や矢作川流域を中心に販路の拡大を図っている。</p> <p>また、地元農家による野菜の直売コーナーの開設、森林整備体験や環境教育体験等、様々な活動を展開し、矢作川流域における都市部住民との交流を促している。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>根羽村総務課企画 0265-49-2111 財政係</p>
<p>壺まつり実行委員会 (山口県防府市)</p>	<p>防府市の「末田」「堀越」地区は、良質な陶土に恵まれ、明治時代から「土管」、「たこつぼ」等の窯業地として栄えた地域であるが、昭和40年代に入り近代化の波に押され始め、地場産業である窯業が衰退していった。</p> <p>昭和50年代には、焼き物文化の伝統を守り、窯業の再生を願う若手の後継者数名が中心となり、民芸窯への機運が高まり、昭和56年に末田・堀越地区の6つの窯元が協力の上、地域おこしのための壺まつり実行委員会を組織した。第1回は、昭和56年10月に開催し、第3回からは、春と秋の年2回を継続的に開催している。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>防府市産業振興部 0835-25-2148 観光振興課</p>
<p>小樽雪あかりの路実行委員会 (北海道小樽市)</p> <p>http://otaru.yukiakarinomichi.org/</p>	<p>「小樽雪あかりの路」は、冬季の観光閑散期対策と地域活性化を目的に、2月初旬からのバレンタインデーの前後10日間、小樽運河の水面に約400個のガラスの浮き玉キャンドルを浮かべるとともに、旧国鉄手宮線や散策路にあかりを灯すイベントである。</p> <p>イベントでは、市民ボランティアなどの協力を得ながらオブジェやスノーキャンドル、ワックスボウルを作成し、そこにロウソクのあかりを灯すことで、まち全体が明りに包まれるよう企業や町会、学校等に呼びかけ、スノーキャンドルやオブジェの製作による地域でのコミュニティ醸成を促しており、官民・ボランティア一体で、手づくり感のある取組を行っている。</p>	<p>観光振興</p>	<p>小樽市産業港湾部 0134-32-4111 観光振興室 (内線: 267)</p>



鹿の猟師焼き定食



壺祭りの様子



浮き玉が浮かぶ小樽運河

平成21年度(第26回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>特定非営利活動法人 まちおこし佐原の大祭振興協会（千葉県香取市）</p>	<p>本協議会は、300年の伝統を誇る佐原の大祭をまちおこしの視点から活用し、佐原の知名度向上や地域経済の活性化に貢献することを目的に、平成13年に前身である佐原の大祭実行委員会を支えてきたメンバーを中心に活動をはじめた。</p> <p>主な活動として、佐原の大祭当日の山車を一堂に集めるイベントの演出や、首都圏を中心とした広報活動を実施し、最近では外国人観光客の誘致にも取り組んでいる。</p> <p>また、佐原の大祭を彩る音色として欠かせない佐原囃子の保存・伝承・啓蒙にも力を入れ、佐原囃子を演奏する下座連をのせた「下座舟」を小野川で運行、CD・DVDの作成、市内外の小中学校の郷土芸能部への指導を行っている。</p> <p>これらの活動が功を奏し、平成16年2月には、「佐原の山車行事」として、佐原囃子とともに佐原の大祭が、国の重要無形民俗文化財に指定された。</p> <div data-bbox="545 629 911 920" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">佐原の大祭 山車整列</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>香取市経 0478- 済部商工 50-1212 観光課</p>
<p>特定非営利活動法人 NPOみなとしほがま (宮城県塩竈市)</p> <p>http://blog.canpan.info/minatoshioigama</p>	<p>本法人は、平成15年に発足し、60名の会員が6つの部会に分かれて、多くの市民団体と連携しながら活動している。「海と社を生かしたまちづくり」を目標に、地域の埋もれた歴史や文化を発掘し、わかりやすく解説する活動により、市民の郷土意識が高まっている。</p> <p>主な活動として、江戸時代の地誌解読を核にした郷土史の発掘、史実に基づく「歴史観光サイン」・「古地図古絵図集」・リーフレット等の製作、廃仏毀釈で隣町に移転されていた古寺の向拝の再移転・保存、大正時代の和洋併置式住宅である「亀井邸」の保全・活用、郷土史を題材にしたカルタの制作、京都市下京区と塩竈市の交流までに発展した平安貴族にまつわる埋もれた歴史の掘り下げ、毎週末の観光ボランティアガイドの実施、日本人で初めて世界一周をした郷土の先人である「津田夫と左平」の偉業顕彰があり、幅広い活動を展開することで、地域の歴史や文化の普及に努めている。</p> <p>塩竈の歴史、文化を発掘し、広く市民等への普及を図りながら、郷土への愛着心を育み、港、海を生かした活気あるまちづくりを進めることを目的に、6部会に分かれて活動している。</p> <p>古文書部会は古文書の解読を通してまちの歴史を発掘し、歴史観光サインやリーフレット等を作製。歴史的建造物保存活用部会は「旧法連寺向拝」の保存活動をはじめ、「全国都市再生モデル調査」による「亀井邸」の保全・活用などを実践。みなとかるた部会は郷土意識高揚のため「塩竈百人一首」を制作中。京都の縁部会は光源氏のモデルとも言われる源融と塩竈の縁について調査し、塩竈市と京都市下京区との公的交流までに発展。観光ボランティア部会は塩竈神社を中心に観光ボランティアガイドを行い、本市のすばらしさを市民や観光客に伝えている。津太夫・左平顕彰部会は「初めて世界一周をした日本人」津太夫・左平の偉業を広く伝える啓蒙活動を様々な形で実践している。</p> <div data-bbox="545 1592 906 1877" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">鹽竈神社でのボランティアガイド</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>塩竈市総 022- 務部政策 364- 課 1111</p>

<p>四万十町十和おのみさ ん市(高知県四万十 町)</p> <p>http://www.towa.ne.jp/user/okamisannichi/</p>	<p>本団体は、四万十町の十和地区(旧十和村)全域に広がる31の生産グループ、18の加工グループと地元関係団体で構成され、地元の野菜の直売や、地域に伝わる加工技術を継承した商品の販売、学校給食への食材提供、都市部との交流活動を展開している。また、消費者からの信頼を得るため、野菜の生産に携わる会員全てがISO14001を取得し、販売する野菜全てに生産者名、化学合成農薬の使用回数などを示す「正直エコ農産物表示」を付している。</p> <p>高知市内のスーパーに出向いての直売活動である「おでかけ台所」の取り組みは、現在11店舗まで拡大し、道の駅「四万十とおわ」の食堂の休業日を利用して営業する「おもてなしバイキング」や都市部との交流を図る「おもてなしツアー」では、郷土料理の提供をメインに農業体験を組み合わせるなど、地域資源を活かした交流の場として好評を得ている。</p>  <p>おもてなしバイキング</p>	<p>地域連 携・地域 おこし</p>	<p>高知県四 0880- 万十町十 28-5114 和総合支 所産業建 設課</p>
<p>五ヶ村村おこしグ ループ(宮崎県高千 穂町)</p>	<p>本グループは、高千穂町の温泉開発を地域の活性化につなげようと、平成6年に活動を始めた。「村おこしは60歳から」を合い言葉に、メンバーが資金を出し合い、温泉隣接地に「天岩戸温泉茶屋」を建設し、地鶏うどん、サツマイモの温泉団子など地元の食材を使った特産品の販売が好評を得て、運営を軌道に乗せた。</p> <p>平成11年には、地域で途絶えかけていた高千穂の夜神楽の伝承と交流の拠点づくりのために、隣町の古民家を譲り受け、「神楽の館」を建設した。平成14年からは同館を民宿として活用し、毎年、刈干切りや神楽面影りなどの体験ツアーを企画、運営している。</p> <p>平成20年には、隣町から石蔵を移設するための費用を全国に呼びかけ、石蔵カフェ「千人の蔵」を建設した。メニューの考案は地域の若者グループと協力し、地元の食材を使って、農作業の合間に食べられていた労働食「こびる」を提供している。</p> <p>平成22年3月には高千穂町内のホテルとタイアップし「神楽体験ツアー」を実施。宮崎県が元気な集落づくりに取り組む中山間集落を認定する「いきいき集落」に認定され、広く県内外に情報発信し活性化の取り組みを進めている。</p>  <p>伝統文化 夜神楽</p>	<p>文化・歴 史資源の 継承・利 活用</p>	<p>高千穂町 0982- 企画観光 73-1207 課</p>
<p>美濃和紙あかりア ート展実行委員会(岐 阜県美濃市)</p> <p>http://www.minokanko.com/</p>	<p>美濃和紙あかりアート展は、美濃市制40周年記念行事の一つとして、地域の伝統産業であり1300年の歴史を誇る「美濃和紙」と、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「うだつの上がる町並み」との融合のもとに考案された。「美濃和紙」を使った、あかりとしての魅力にあふれたアート作品を全国から公募し、「うだつの上がる町並み」全体を会場として展示し、コンテストや街角コンサートを行う。毎年約500点の応募があり、美濃市の秋の一大イベントとなっている。</p> <p>イベントを運営する実行委員会は、広報・会場・イベント・審査等、役割に応じた小委員会がすべてボランティアで構成され、地域の自治会や企業等の全面的な協力を得ながら活動を展開している。また、美濃和紙あかりアート展だけにとどまらず、各地からの依頼を受け作品を貸し出す「あかりの出張」や、全国各地の「あかり」を通してまちづくりを行っている地域との意見交換を目的とした「全国あかりサミット」の開催など、活動の範囲を年々広げている。</p>  <p>美濃和紙あかりアート展</p>	<p>文化・歴 史資源の 継承・利 活用</p>	<p>美濃市産 0575- 業振興部 33-1122 観光課</p>

平成20年度(第25回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>長沼町グリーン・ツーリズム推進協議会（北海道長沼町）</p>	<p>長沼町の地理的条件と広大な農耕地を利用したグリーンツーリズムを、低コストで実施できるように、町と農協を中心に研究を行い、事業の実施のために関係団体で推進協議会を設置して全町で取り組みを行ってきた。</p> <p>長沼町のグリーン・ツーリズム事業は、国の構造改革特区等を活用し、一般の農家住宅での宿泊受け入れが可能となったことで、農家の空き部屋を利用するなど、大きな負担なく事業を始めることができ、また、一般の農家での農業体験ができるということで、修学旅行等で利用され好評を得ている。</p> <p>魅力的な農家民宿を核に、地産地消の推進やどぶろくの提供など、地域資源を活用した取り組みにより事業を発展させ、都市住民に向けた地域づくりを進めることで幅広い効果をもたらしている。</p> <p>農業者側にとっても、この事業を行うことにより、子どもたちに農業体験等を通じてより理解してもらおうと、自らも農業のこと、食のことを深く勉強することとなり、農業に対する意識改革につながっている。さらに、農家の女性も表舞台で活躍する場面が多くなり、家族とのコミュニケーションの潤滑油となるほか、勉強会などを通じた女性同士の交流にもつながっている。</p> <div data-bbox="555 712 946 999" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">稲刈り体験をする子どもたち</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>長沼町産 0123-業振興課 88-2111</p>
<p>有限責任中間法人明宝（岐阜県郡上市）</p>	<p>郡上市明宝(旧郡上郡明宝村)では地域の自治会が出資し、第3セクターを設立し、地域資源を利用した加工品の製造や、観光施設の立ち上げ、運営を行ってきた。</p> <p>村名の変更など地域をあげてのブランド作りを行い、その結果、地域の就業人口の14%を雇用する企業となり、地域の自立に大きな役割を果たした。</p> <p>平成16年、明宝村は7町村の合併により郡上市となったが、自立意識による活力を維持するため、旧明宝村の全自治会を構成員とした有限責任法人明宝を設立し、明宝ブランドの維持に努めてきた。</p> <p>一般社団法人明宝(旧名称・有限責任中間法人明宝)は、旧明宝村に代わり、持ち株会社として下記の5つの会社(明宝特産物加工㈱、めいほう高原開発㈱、明宝温泉開発㈱、㈱明宝マスターズ、㈱明宝レディース)を1つのグループとして統括するとともに、5つの企業の社員向けに販売活動に関する教育を行うなど、明宝地域の産業の活性化を図っている。</p> <p>さらに、当法人は、当地域で花壇づくり、文化の継承、農業体験などの様々な地域づくり活動を行っている団体等の活動に対して支援を行っている。さらに、毎年7月に行われる当地域の大イベントである野外音楽フェスティバル「めいほう高原音楽祭(平成19年度6,000人集客)」に対して約127万円を助成するなど、地域づくりにも大きく貢献している。このような取り組みにより、年間約72万人の観光客が訪れる魅力ある地域を維持するとともに、当地域は、地理的、地形的などの条件が厳しい山村にもかかわらず平成2年から人口2,100人を維持し続けている。</p> <div data-bbox="555 1608 962 1895" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">企業の1つ明宝レディースのトマトケチャップ</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>郡上市明 0575-宝振興事 87-2211 務所地域 市民課</p>

<p>若松で音楽を聴く会 (福岡県北九州市)</p>	<p>かつて石炭の積出港として栄えた北九州市若松区では、上海からジャズが上陸し、北九州のジャズの聖地といわれていた。戦後、その伝統は一時廃れたが、平成2年に地元ボランティアによる「若松で音楽を聴く会」が結成され、ジャズによるまちおこしをするためライブ活動を開始、若松区の学校や公園、病院、役所、寺、銀行、駅など様々な場所で演奏を行い、幅広く市民に音楽を楽しんでもらう一方、チャリティーコンサートや地元へ楽曲を提供するなど奉仕活動も行っている。 国内外の有名アーティストを招いたライブ活動も活発で、平成9年に地元活性化協議会等とともに始めた「若松鉄人JAZZ」は毎年好評で、平成21年で13回目を迎え、地域のイベントとして定着している。</p>  <p>お寺でジャズの開催風景</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>北九州市 093- 若松区役 761- 所まちづ 5321 くり推進 課企画係</p>
<p>別府八湯ウォーク連絡協議会(大分県別府市)</p> <p>http://www.beppu-navi.jp/walk/</p>	<p>住民達がまちづくりの第一歩は自分たちのまちを知ることという動機から、「竹瓦(たけがわら)かいわい路地裏散歩」として地域を歩き始めたことが発端で、別府全域に広まってきた。10団体13コースの町歩きツアーが開催され、多くの地域内外の人に参加している。 始まりの経緯から、コースは地獄湯巡りのような有名な観光地を回るのではなく、路地裏の生活感溢れる共同湯や、別府ならではの老舗など地域に密着しスポットを、自治会役員や旅館の従業員、主婦や海外からの留学生など地域の住民自らが紹介している。 平成21年における実施回数は970回以上、参加者数も9,500名を超えた。 別府のシンボリック温泉「竹瓦温泉」を中心とした「竹瓦かいわい路地裏散歩」、湯けむり情緒あふれる湯治場を訪ねる「鉄輪温泉湯けむり散歩」など人気のコースをはじめ、平成21年度には別府の朝見地区の方々が立ち上げた「朝見郷ロマン散策」がスタート。歴史と名水と眺望を訪ねる観光地ではない別府の小旅行が好評である。 また、「日本の棚田100選」にも選ばれている内成地区を巡る「内成ウォーク」も生まれた。この内成ウォークは別府市内にある立命館アジア太平洋大学の学生が中心になって企画・運営しているものである。 これらのコースを加えて、現在12団体による14コースが定期開催されている。また、期間限定の臨時コースも加え、バラエティー豊かな取り組みが、温泉都市、別府の隠れた魅力を掘り起こし、まちづくりの原動力となっている。受賞を励みとして、地域が一体となった取り組みがさらに広がっている。</p>  <p>竹瓦温泉でのガイド風景</p>	<p>観光振興</p>	<p>別府市 0977- ONSEN 21-1128 ツーリズム ム部観光 まちづくり 課</p>

<p>小千谷闘牛振興協議会(新潟県小千谷市)</p> <p>http://www.tsunotsuki.com/</p>	<p>昭和52年に小千谷市東山地区に伝わる闘牛(牛の角突き)の衰退を危惧した有志によって結成された。翌年には国の重要無形民俗文化財に指定され、伝統文化として高い評価を受け、更に地域の誇りとして角突きを盛り立てていく契機となった。また、市の支援により闘牛場が建設されるなど、地域の伝統の神事としてだけでなく、貴重な文化及び観光資源として地域外からの見物客の受入も積極的に行ってきた。</p> <p>一方、平成16年10月の中越地震により闘牛場や飼育施設などに大きな被害を受けたが、会員の復興への気持ちと多くの支援により翌年の6月から臨時闘牛場で再開され、小千谷市の復興のシンボルとして先導的な役割を担ってきた。</p> <p>現在では被災した闘牛場の復旧も終了し、地震前と変わらない迫力ある取組が行われ、多くの観光客を集めている。</p>  <p>牛の角突きの開催風景</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>小千谷市 0258-商工観光 83-3512 課</p>
<p>横山振興会(石川県珠洲市)</p>	<p>耕作放棄地の有効活用による地域興しのため、地域住民全員で、かつて各家庭で作られていた豆腐の味を復活させようと、平成12年から3年にわたり試行錯誤を重ねてきたが、平成15年に低温と長雨により、大豆が全く収穫できず、豆腐を作ることが不可能になった中、集落の農家から、昔地域で栽培されていたものの、すでに幻となっていた「大浜大豆」の提供を受けたことをきっかけとして、大浜大豆の栽培や利用を行ってきた。</p> <p>この結果、現在では各地からの問い合わせも受けようになり、大豆を通じた地域交流も始まった。</p> <p>平成19年度から、市内の主な経済団体と行政により構成された「珠洲市産業経済団体協議会」が事業主体となり、地域資源を活用して産業振興・雇用創出を図ることを目的に厚生労働省の地域雇用創出推進事業(新パッケージ事業)に取り組んでいる。この事業を活用し、横山振興会のメンバーが中心となって大浜大豆の加工品化に取り組んできた。県外から講師を招いての学習会や、地元の豆腐店を借りての試作研修を繰り返した結果、地域の特産である「にがり」を用いた独特の豆腐製造技術を習得した。折しも、平成21年4月には、地域において地元産品の直売や体験学習を行う「交流施設狼煙」がオープンし、以降はこの施設を拠点として大浜大豆を使った豆腐製造及び販売を行っている。豆腐のほか、豆乳を活かしたソフトクリームや、おからを使ったドーナツなど関連商品も好評で、施設の順調な運営に貢献している。</p> <p>また、こうした取組を励みとして、地元産の「そば」や「からし菜」など、新たな地域資源の活用・商品化についても研究しているほか、従来取り組んできた休耕地や耕作放棄地を利用した大浜大豆の生産拡大にも努めるなど、現在も地域住民を挙げて地域の活性化に取り組んでいる。</p>  <p>大浜大豆を使った加工体験</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>珠洲市企 0768-画財政課 82-7716</p>

<p>うだつの土曜祭実行委員会(徳島県つるぎ町)</p>	<p>つるぎ町のうだつの町並みは全国的にも珍しい二層うだつで、平成10年には町並み保存条例を制定し、町並みの保存に取り組んできた。しかし商店街は郊外の大型店などの競合で下火になりつつあり、うだつの町並みを活かした活性化を行いたいとの思いから「うだつの土曜祭実行委員会」を設立し、月一回の土曜祭を実施してきた。フリーマーケットや、農産物の特売、まちかどでのライブ、コンサートなどのイベント等を継続してきたことで、来客数も徐々に増え、住民の中にも土曜祭が定着し、住民同士や来訪者との交流も増えてきている。貞光中央商店街では、景気の低迷に始まり大型店舗の参入などで地元の商店街で買い物をする客数が減り、売り上げも伸び悩み親しみの持てる商店街の時代ではなくなりつつある。そこで、「下火になっていく商店街を以前の様に明るく活気あふれる商店街にしよう」、「江戸時代から貞光町は商家の町として栄え中でも中央商店街は、全国的にも珍しい二層うだつがあがる町並みを生かして地域の活性化につなげたい」という切なる思いから、うだつの土曜祭実行委員会を設立し、平成14年6月からこの月に1回土曜祭を開催している。地元住民の間でも土曜祭が浸透してきている。また、地元住民がボランティアで土曜祭に参加するなど様々な広がりを見せてきている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>つるぎ町 0883- 企画課 62-3114</p>
<p>山之口麓文弥節人形浄瑠璃保存会(宮崎県都城市)</p>	<p>戦争により一時活動が中断していた山之口の浄瑠璃であったが、戦後、各家庭に残っていた人形を集め、昭和26年に保存会が結成されて以来、多くの会場で上演を行い高い評価を受けてきた。このような評価を通して、定期公演開催と貴重な人形や資料等の保管展示館の建設の必要性が高まり、平成4年5月に「山之口麓文弥節人形浄瑠璃資料館」が建設された。資料館の完成により、定期公演を開催。また、平成7年「国の重要無形民俗文化財」の指定を受け、さらに、民俗芸能の後継者育成事業として地域内の市立麓小学校の5年生・6年生を対象にした「麓小学校人形浄瑠璃サークル活動」に取り組んできた。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>都城市企 0986- 画部経営 23-2115 戦略課</p>



織本屋でのイベント風景



子どもたちに指導する保存会メンバー

平成19年度(第24回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容 の分類	問い合わせ先
<p>ハッピーロード大山商店街振興組合(東京都板橋区)</p> <p>http://www.haro.or.jp/</p>	<p>板橋区の11交流都市が集まった複合的アンテナショップ(とれたて村)で、各地のおいしいもの、とっておきの情報を発信する拠点である。店内には、産直野菜をはじめ、このまちならではの商品が満載で全国様々なまちの商品、情報が手に入るのが特徴である。この取り組みは、「地方の魅力を活用し、集客を図りたい」商店街と、「首都圏でまちをPRし、観光誘客や販路拡大につなげたい」市町村、そして「地方との結びつきを強め、都市交流の促進を図りたい」板橋区、3者にメリットのある仕組みを構築し、それぞれの活性化を図ることを事業コンセプトに、単独ではできないことを相互協力により実現させ継続させ、商店街、板橋区、参加市町村の各々のまちづくり・地域の活性化に貢献することを目的に活動している。</p> <p>具体的には、商品の売れ筋状況や消費者の声を産地側へフィードバックしたり、地域特産品の宣伝販売や観光キャンペーンはもちろんのこと、各市町村とも毎回工夫をこらした企画を考え、足湯温泉が登場したり、乳牛を連れてきて搾乳体験をさせたりと、都会では味わえないふるさと体験活動を年間30回以上のイベントを開催している。また、「交流体験ツアー」として山形県尾花沢市の伝統行事「花笠まつり」に参加したり、長野県飯山市の方とフラダンスで楽しんだり貴重な交流体験をしてきた。さらに食育推進の一環として、20年度からとれたて村近隣の小中学校を対象に学校給食の食材を提供。21年度から、月1回、区内小中学校の学校給食に交流都市の新鮮野菜を提供している。</p> <div data-bbox="552 730 940 1016" data-label="Image"> </div> <p>交流市町村の物産販売を行っているアンテナショップ「とれたて村」</p>	<p>商店街の活性化</p>	<p>板橋区産 03- 業経済部 3579- 産業振興 2171 課</p>
<p>特定非営利活動法人ながおか生活情報交流ねっと「そいが」(新潟県長岡市)</p> <p>http://www.soiga.com/</p>	<p>地域のIT支援、まちづくり推進、経済活動の活性化を3つの柱として、市民活動グループなどのITによる情報発信・交流の手助けや、各地域での交流イベントなどを中心に活動している。2004年、中越地域を襲った水害時には水没した旧中之島町(現長岡市)役場に代わって、「ブログ」を立ち上げ災害情報を発信、中越地震の際には旧山古志村(現長岡市)役場に代わりブログによる震災情報を発信、同じ被災地の旧越路町(現長岡市)でもブログを作成し、役場と情報を共有した官民協力による情報発信を行った。長岡市が総務省のICT(情報通信技術)を活用した住民参画システム構築事業のモデル地域に指定され、長岡市と連携・協力しながら運営を行っている。</p> <div data-bbox="560 1312 946 1599" data-label="Image"> </div> <p>グリーンツリーズム等の活動拠点となっている「あぐらって長岡」</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>長岡市市 0258- 長政策室 39-2204 政策企画 課</p>

<p>NPO法人かさおか島づくり海社(岡山県笠岡市)</p> <p>http://www.shimazukuri.gr.jp/</p>	<p>島おこしを笠岡諸島の有人7島が連携して行う組織として結成され、過疎高齢化の波を受けながら、島民の生活に直結するサービスを維持・向上させる事業を展開している。子供の健全育成及び高齢者等の福祉増進に関する事業、IT技術活用等による情報発信や特産品開発等に関する事業、社会教育、文化、スポーツ、人権擁護等に関する事業、都市・漁村交流や安全・安心のまちづくり等に関する事業を主に行っている。幅広い分野での活動を通じ、島という地域性を最大限に活かした事業は、今後の地域再生という大きな課題がのしかかる中で、地域づくりに活かされている。</p>  <p>笠岡諸島名物のひとつとなっている 各島の食材を活用した「しまべん」</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>笠岡市政 0865-策部協働 69-2123のまちづくり課</p>
<p>大隅の國やっちく松山藩(鹿児島県志布志市)</p> <p>http://www.murasaisei.jp/vattiku/</p>	<p>源平合戦に敗れた平重頼の末孫現代に生きる若者たちが知恵と勇気を限りなく出し尽くし、松山町に新たな活力と冨を呼び起こしていこうという設定で、様々な業種、考え方を持った若者が互いに知恵を出し合い、協働し、毎年11月に「やっちく松山藩秋の陣まつり」の開催を中心とした視野の広い地域づくりを展開している。やっちく松山藩では、国際交流への取り組み、地域づくりに対する熱い情熱を持った人材の育成、また、手作りにことんまでこだわったおもてなしなど、「若者が住みたくなるまちづくり」とは何かをメインテーマに、開藩20年を超えた現在も変わることなく、あらゆる分野の検討・協議を行っている。</p>  <p>「秋の陣まつり」での武者行列 大・小道具に至るまで「手づくり」で運営されている</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>志布志市 099-松山支所 487-地域振興 2111課</p>
<p>認定特定非営利活動法人霧多布湿原トラスト(北海道浜中町)</p> <p>http://www.kiritappu.or.jp</p>	<p>1986年に任意団体霧多布湿原クラブを設立し、借地契約による湿原保全活動を開始した。14年の活動経過後、あらためて霧多布湿原の保全をより確かなものにするため、湿原内の民有地を買収、公共財産としての保全を図ることが必要と考え、2000年1月「NPO法人霧多布湿原トラスト」を設立し、全国の人々に呼びかけ、霧多布湿原民有地買収ナショナルトラスト運動を始めました。将来にわたり、私たち自身が自然と調和した豊かな生活を楽しむことが出来るように、霧多布湿原をはじめ、身近な自然の景観や生き物たちの生息環境を残していきたいと活動している。</p>  <p>保全・再生活動やファンづくりなど地道な活動によって美しい湿原が保全されている</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>浜中町ま 0153-ちづくり 62-2237課地域振興係</p>

<p>桐生からくり人形保存会(群馬県桐生市)</p> <p>http://www.kiryu.co.jp/karakuri/</p>	<p>国内では桐生にしか残っていないと絶賛されたからくり人形を復活、活用することを目的に始動、「桐生からくり人形芝居館」が「桐生市有鄰館」内に開設され、活動の拠点となる常設館がスタート。桐生の文化・産業の基点となった天満宮の遷宮1500年記念事業で、初の水車動力による人形芝居を上演、トヨタグループ産業技術記念館会館10周年イベントで上演・展示を行い4,000人を超える来場者から喝采を浴びた。また、からくり人形芝居の伝承者育成事業として教室を開講、移動用舞台を制作し、出張移動公演を行ってきた。</p> <p>からくり人形保存会は、平成21年4月に名称を「からくり人形芝居」に変更。市の指定文化財である桐生市有鄰館敷地内のビール蔵の一部に「からくり芝居館」を設置。現在ここを主な拠点に、からくり人形芝居の復活・保存と上演活動を行っている。敷地は市の無償貸与により使用している。会員数は約30名で、毎月第一土曜日にからくり人形芝居館で定期上演を行うほか、求めに応じて随時上演も行う。また、市内外のイベント等へ、要請により出張上演なども行っている。</p> <div data-bbox="550 488 940 770" data-label="Image"> </div> <p>「桐生からくり人形館」でのからくり人形上演風景</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>桐生市管 0277- 理部生涯 46-1111 学習課文 化振興係</p>
---	--	-----------------------	--

<p>特定非営利活動法人 蒲生野考現倶楽部</p> <p>http://www.gamouno.com/</p>	<p>地域の水環境文明を明らかにしようと1990年に地域住民が中心となり、水と人のよりよい関係づくり、体験活動を通して郷土を愛する青少年育成を図ることを目的に、活動の拠点として築150年の民家を借り受け「あたらしや学問所」を開設。廃校になった学校を借り受けて里山研究と体験活動及び地域再生の拠点となる「しゃくなげ学校」を開設。さらに、琵琶湖に浮かぶ沖島に「琵琶湖沖島自然学校」を開設し、日野川の上流・中流・下流を結ぶ「山の学校・野の学校・湖の学校」が誕生した。現在、環境マネジメント局他、7部局で活動してきた。</p> <p>環境文化に関する調査研究と学習交流を通じた地域文化の向上に寄与するとともに、体験活動を通して郷土を愛する青少年育成を図ることを目的としている。当倶楽部の活動スローガンは、「たんけん・はっけん・ほっとけん」で、地域に出かけると、そこでの生き物の営みと先人の知恵に学ぶことが多い。感性が「ほっとけん」にまで高まり自ら地域環境に関わろうと動きだしたとき目の前の地域が故郷になっていく。この一歩こそ人と自然の新しい関係を築き、地域固有の環境文化を創る21世紀の地域づくりに大切なエネルギーである。</p> <p>現在、築150年の民家を借り受けた「あたらしや学問所」(野の学校)、廃校になった小学校を借り受けた「しゃくなげ学校」(山の学校)、琵琶湖に浮かぶ沖島にある「琵琶湖沖島自然学校」(湖の学校)の3つの拠点を活用し、活動に取り組んでいる。</p>  <p>里山活動の拠点となっている 「しゃくなげ学校」</p>	<p>環境資源 の保全・ 活用</p>	<p>日野町企 0748- 画振興課 52-6522 企画人権 担当</p>
<p>財団法人清和文楽の 里協会 (熊本県山都町)</p> <p>http://www.town.kumamoto-yamato.lg.jp/bunrakunosato/</p>	<p>伝統農村文化の清和文楽は、嘉永年間(1848~1854)頃、淡路の人形芝居の一座から人形を買求め、技術を習ったのが始まりで今日まで継承され、昭和35年に県の無形文化財に指定された。この財団は、旧清和村が村おこしのシンボルとした「文楽の里」づくりを展開し、年間200回程度の公演を行っている九州唯一の文楽専用劇場の清和文楽館、清和高原天文台、清和物産館、郷土料理を詰め合わせた十人重箱弁当が名物となっている郷土料理館の運営を行っており、年間10万人を越す人々が訪れ、清和文楽が地域のシンボルとして定着し、清和文楽の伝承、地域経済の活性化等がなされてきた。</p> <p>清和文楽人形芝居は、江戸時代から農村芸能として受け継がれてきた。旧清和村時代に「文楽の里」づくりが進められ、平成4年に完成した文楽館では年間200回の公演を行い、年間10万人以上の観光客が訪れている。隣接する物産館と郷土料理館では、有機栽培にこだわった農産物とその加工品、そして郷土料理を販売している。</p>  <p>年間約200回に及んでいる 「清和文楽館」での文楽公演</p>	<p>文化・歴 史資源の 継承・利 活用</p>	<p>山都町商 0967- 工観光課 72-1158</p>

平成18年度(第23回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>まぶりとと衆・早池峰の会(岩手県遠野市)</p> <p>http://www.tono-furusato.jp/</p>	<p>市内の古民家(南部曲り家)を移築し、農業体験型観光施設「遠野ふるさと村」の館内で、来村者に対し、体験インストラクターとして昔ながらの農業体験や地域に伝わる伝統行事・文化活動を行っている。また、村当番制で常駐し、村内の曲り家の維持管理を行っている。(「まぶりとと」とは、「まぶる(守る)人」という意味の方言からつけた名称)</p>  <p>「遠野ふるさと村」での小正月みず木飾りの様子</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>遠野市 0198-62-2111 産業振興部観光交流課</p>
<p>取手アートプロジェクト実行委員会(茨城県取手市)</p> <p>http://www.toride-ap.gr.jp/</p>	<p>地域の大学と連携した市民参加型の協働アートプロジェクトとしてスタート。これまで野外アート展と在住作家のアトリエ公開「アートレジデンス」を交互に実施。近年では文化芸術によるまちづくりの推進役であるアートマネージャーを育てる人材育成事業TAP塾を実施し、アートによるまちづくりを推進。これらの活動により商店街の活性化に貢献してきた。取手アートプロジェクト(TAP)は、市民・東京芸術大学・取手市の三者が協働で行っているアートプロジェクトで、若いアーティスト達の創作発表活動を支援し、広く市民が身近に芸術に触れる機会を提供することで、取手市が文化都市として発展していくことを目的とし、1999年から活動が続いている。</p>  <p>「取手アートプロジェクト」の活動のひとつ 壁画プロジェクトのオブジェ</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>取手市 0297-74-2141 政策推進部文化芸術課</p>
<p>A T 2 1 倶楽部(愛知県豊田市)</p>	<p>足助の観光の将来を見据えた計画や、具体的に実践できる場を提供するため観光に関わりのある事業者の若手を募って発足。町内の観光施設の見学。県外のまちづくりグループとの交流から始め、地域の再点検とまちづくりの学習を経て、地域資源を活かした活動として、中馬のおひなさん、塩の道お宝展、たんころりんなどを展開。また、県内外の地域活動団体への視察研修を積極的に行い、そのとき限りの訪問だけに終わらず、その後も相互に交流が続いている。</p>  <p>AT21倶楽部の活動のひとつ</p>	<p>観光振興</p>	<p>豊田市 0565-62-0601 社会部足助支所</p>

<p>八雲国際演劇祭実行委員会(島根県松江市)</p> <p>http://www.yitf.org</p>	<p>国内初といわれる公設民営の劇場「しいの実シアター」が完成し、その後、地域住民・劇団あしぶえ・八雲村行政の三者が一体となり、「演劇によるまちづくり」をスタートし、演劇楽校やシンポジウムの開催、国内外公演など活動を広げている。そのメイン事業として「八雲国際演劇祭」を企画し、平成11年のプレ大会の成功を踏まえ、13年、16年と開催し、いずれも大反響を得た。</p> <p>現在、足助地区内のイベント開催と県内外のまちづくり団体との交流活動を行っている。地区内のイベントは、1月の七草粥の振る舞いに始まり、2月には中馬のおひなさんを開催。これまで9月に行っていた塩の道おたから展は、平成21年度から趣向をかえ、「足助の町並み 芸術さんぽ」を開催。町並みの古い町屋や商店の一角を使って、地元の現代美術アーティストの作品を展示したり、愛知の職人たちにより作品の展示・実演・体験を行ってもらうもの。町並みをより楽しく散歩してもらうための工夫である。まちづくり団体との交流は、毎年行われる「全国まちづくり交流会」へ参加。そこで交流がうまれた地域へも視察研修に出かけている。</p>	<p>国際交流</p>	<p>松江市 0852- 観光振 55-5293 興部観 光文化ブ ランド推 進課</p>		
	<p>「八雲国際演劇祭」の実演の一コマ ベルギーの演劇学校の校長先生が演じる「クラウン」の様</p>	<p>片浦レモン研究会(神奈川県小田原市)</p>	<p>白カビ防止剤を使用したレモンの輸入が認められたことで、消費者にレモンの不買運動が起こり、これを「きっかけ」に小田原市片浦地区のレモン生産農家が、安全・安心を目標に、同地域の気候風土に適したレモン栽培の研究会を立ち上げた。企画・開発した商品「小田原れもんわいん」は2003年国産ワインコンクール(甲府市で開催)のフルーツワイン部門で入選し、レモンを通じた様々な活動を行ってきた。</p> <p>研究会では、発足から30年以上経った現在も安全・安心なレモンの研究・栽培・直売をしているほか、2003年国産ワインコンクールのフルーツワイン部門で入選したこともある、片浦レモンを100%使用した「小田原れもんわいん」の期間限定販売の継続を原材料の生産者として支えるなど、レモンを通じたさまざまな活動を行っている。</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>小田原市 0465- 市経済 33-1492 部農政 課</p>
	<p>レモン畑より望む「東洋のリビエラ」</p>				

<p>赤城コマランド(新潟県長岡市)</p>	<p>四郎丸地区の高齢化や学校の荒廃が社会問題化してきた10年前、地区の殆どの組織・団体が参加して「教育環境づくりの会」を結成し、その一部門が地区の農家から3,000坪の山林を借りて冒険遊び場の建設に着手。「子供たちを自由にのびのびと遊ばせよう」と地区民あがての活動を開始し、5,500本を超える植林と保育を行い、ログハウス建築や子供たちと遊具づくりなど活動を行っている。</p>  <p>赤城コマランド内の手づくりの</p>	<p>地域連携・地域づくり</p>	<p>長岡市 市長政策室 政策企画課 0258-39-2204</p>
<p>阿波人形浄瑠璃「勝浦座」(徳島県勝浦町)</p>	<p>江戸時代から約200年続く阿波人形浄瑠璃の人形座。阿波人形浄瑠璃の保護と伝承に務め、地域内でのイベント等における公演を活発に行うことにより、住民の伝統文化への意識の向上。地域内外の交流促進に寄与している。また、地元勝浦高校民芸部へ人形浄瑠璃指導を昭和37年から続けており、後継者の育成を通して、地域伝統芸能の後世への伝承、保存に務めてきた。 子ども人形芝居教室を開催し、伝統芸能の継承に努めている。 現在、秋に定期公演を町内で開催し、町民に人形浄瑠璃とふれあう機会を提供している。</p>  <p>「勝浦座」後継者育成の活動のひとつ 勝浦高校民芸部のみなさんの練習風景</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>勝浦町教育委員会 0885-42-2515</p>
<p>ふるさとの家(香川県東かがわ市) http://www.gomvo.co.jp/</p>	<p>五名地区の物産館及び交流拠点の場として、郵便局の旧局舎を改修し、「ふるさとの家」がオープンした。地域内外の交流拠点とし、にぎわいを創出している。「ふるさとの家」では、地域の人達が作った素朴で温かな手作りの作品(陶芸・民芸家具・竹細工・染物・織物・竹の皮で編んだぞうり等)の展示即売や地元農家の朝取り野菜や特産物(自然薯・椎茸・きゅうり・山菜等)を販売している。 五名「ふるさとの家」は、そこに暮らす地域の人達はもちろん、地域外の人達との交流の場であり、気軽になにげない手づくりと温かさで「五名ブランド」を全国発信している。</p>  <p>県内外から訪れるお客さんでにぎわう「ふるさとの家」の様子</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>東かがわ市総務部政策課 0879-26-1215</p>

平成17年度(第22回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>特定非営利活動法人 小野川と佐原の町並みを考える会(千葉県佐原市)</p> <p>http://www.sawara-machinami.com/</p>	<p>平成元年に活動の本拠地となる赤煉瓦の三菱銀行佐原支店旧本館が市に譲渡されたのを機に、同3年に「考える会」が結成された。その後、考える会会員たちが町並みの家々を一軒ずつ廻り、所有者に聞き取り調査をし、写真撮影し、建物の特徴を調査票に記入していった。この調査結果にもとづいて、考える会が「佐原市佐原地区町並み形成基本計画」を作成し、市長に提出し、今日の佐原の町並み保存の基礎がかたちづくられた。日常的な活動としては、町並み観光案内所の運営と町並み案内活動、「佐原の町並み・かわら版」の発行などが挙げられる。</p>  <p>佐原の町並み風景</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>千葉県香取市建設部都市計画課 0478-50-1214</p>
<p>萩の会(島根県益田市)</p> <p>http://www6.ocn.ne.jp/~sesyu/index.html</p>	<p>萩の会(萩原集落)では、平成10年3月に1軒の空屋を借り受け、民宿「雪舟山荘」を開いた。これが、平均年齢70歳の女性グループ「民宿部会」の始まりである。その際、集落内で作り手のいない水田と合わせ、遊休地を荒らさないためと、水稻部会も発足した。現在、30アールの共同耕作田では赤米や黒米などの古代米を栽培し、民宿の古代食メニューに活用しているほか、小学生の「古代体験ツアー」も受入れている。また、町のブルーベリー試験田を譲り受けて発足したベリー部会は、20アールの圃場畑で300本を植栽し、年2トンの収穫があり、農作物の害獣である猪をも活用して「猪肉のベリー煮」を開発し、全国に販売している。</p> <p>「株式会社 萩の会」は、「集落のコミュニティビジネス」を進めている集落民全員が社員の会社である。男性も女性も、子どもからお年寄りまでみんな一緒の事業体である。</p> <p>地域の自然や伝統の食の素晴らしさをふんだんに取り入れ、訪れる人々に「田舎暮らし体験」「縄文の食体験」を楽しく伝えている。</p> <p>地域ならではの特産品「ブルーベリージャム」と「なめこの佃煮」が大好評で、全国に販売している。最近では、将来の匹見を担う「ふるさと総合学習」への支援として、中学校の「匹見ナビ学習」の地域講師として支援を開始した。</p> <p>ふるさと匹見の情報発信と特産品紹介や販売体験を中学生と一緒に、東京や大阪で行っている。</p>  <p>萩の会民宿部会のみなさん</p>	<p>地場産品の普及・促進</p>	<p>益田市匹見総合支所地域振興課 0856-56-0300</p>

<p>津山城東むかし町実行委員会（岡山県津山市）</p>	<p>「津山城東むかし町実行委員会」は、津山城跡東地区の、歴史や文化・景観を活かした地域づくり・地域おこしを目的に組織し、平成元年から11月の第1日曜日に「出雲街道 津山城東むかし町」を開催している。「城東むかし町」当日は、町並み保存地区の1.2kmを歩行者天国にし、時代行列や富くじなど江戸時代の街道を彷彿させる催しや、幕末に活躍した地元出身の蘭学者やオランダ・ロシアの文化を紹介する「つやま蘭学村」、出雲街道沿線の市町村や津山地域の特産品の物産市など、城東地区の魅力をPRしている。平成元年から11月の第1日曜日に「出雲街道 津山城東むかし町」を開催している。イベント当日は、町並み保存地区の1.2kmを歩行者天国にし、時代行列や富くじなど江戸時代の街道を彷彿させる催しや、出雲街道沿いの市町村や津山地域の特産物の物産市など、城東地区の魅力をPRしている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>津山市経 0868- 済文化部 32-2082 観光振興課</p>
<p>竹田市観光協会（大分県竹田市）</p> <p>http://www.taketan.jp/</p>	<p>これまで岡城中心に考えられてきた観光客誘致を城下町や農村部の観光資源の発掘と開発を行うことで、城下町や農村部へ誘導して「歩いて」「見て」「体験できる」竹田版ツーリズムへの転換を図っている。特に竹の灯籠を城下町に飾る「竹楽（ちくらく）」における取り組みに関しては、その成果が顕著である。里山の孟宗竹を伐採し里山の保全をはかるとともに、伐採した竹を灯籠として活用した観光イベント「竹楽」を行い、最終的には竹灯籠を竹炭にして販売、また河川浄化に活用する、竹を通じた持続的な里山環境の保全と地域の産業連関を提唱している。竹楽は、期間中11万5千人の観光客を集める県下を代表するイベントとなり、観光による地域活性化に大きく寄与してきた。平成20年度に竹田市観光協会、久住高原観光協会、長湯温泉観光協会が合併して竹田市観光ツーリズム協会となりました。また、竹の灯籠を城下町に飾る「竹楽」の取り組みに関しては、平成20年度に特定非営利活動法人里山保全百人会を設立して現在も里山の保全をはかるとともに、観光イベント「たけた竹灯籠 竹楽」を継続して行い、地域活性化に大きく寄与している。</p>	<p>観光振興</p>	<p>竹田市商 0974- 工観光課 63-4807</p>
<p>(有)ふるさとのおふくろフーズ(福島県葛尾村)</p>	<p>地域産業おこしとして平成2年、農家の主婦6名でおふくろフーズ(現 有限会社)を結成した。そのなかで、地域の気象条件を生かして作られてきた伝統食「凍み餅」の商品化と製造販売、保存料を使わない生餅製造等、地域の地場産物を利用した商品開発を開始した。その結果、高齢者や女性に就労の機会を創出したり、もち米の契約栽培等による米需給調整、水田転作による大豆等作付けが図られた。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>葛尾村総 0240- 務課企画 29-2111 係</p>



津山城東むかし祭の様子



十六羅漢の竹灯籠



おふくろフーズのみなさん

<p>特定非営利活動法人 地球デザインスクール (京都府宮津市)</p> <p>http://e-ds.org/</p>	<p>平成9年に府立公園予定地で、市民参加で自然共生の公園づくりを進める「地球デザインスクール」というソフト活動を府が提唱し、平成14年にはこれまでの成果を生かし、有志約50名が「NPO法人地球デザインスクール」を設立した。公園づくりをきっかけとして、自然と共生した持続可能な地域社会、自然と調和した地球環境をデザインできる人材の育成を行うことを目的として有機農法を学びながら里地を整備する「くうたら農学校」、土地のエコロジカルな素材を使った建築ノウハウを開発する「土の建築教室」などを開催し、ビジョンの実現をめざしている。</p> <p>現在、「丹後 海と星の見える公園」をメインフィールドに、丹後の人々の自然と共生した生活、昔からの生活の知恵に光をあて、そこからの学びを発信している。</p> <p>環境に負荷をあたえない生活。循環し、持続可能な生活。日本伝統のもったいない精神で、自然からの恵みを必要な量だけ使い、自然に返す。「里地・里山を活用する」「自然と仲良し」をキーワードに、エコやリサイクルしながら作る料理やクラフト、手づくりワークショッププログラムなど、自然と学び、環境を創るための様々な体験プログラムを行っている。</p>  <p>地球デザインスクールの活動の様子</p>	<p>環境資源 の保全・ 活用</p>	<p>宮津市企 0772- 画環境室 22-2121</p>
<p>枚方宿地区まちづくり 協議会(大阪府枚方 市)</p> <p>http://hirakata-shuku.org/</p>	<p>地域全体で宿場町の歴史を残していこうと、自治会や商店会、各団体等で構成される枚方宿地区まちづくり協議会を結成し、地域の歴史を生かし魅力あるまちづくりを進めるために活動している。平成13年には伝統的様式の建築物を残し、新しい建物でも古い街並みに調和した形で修景するということを地区の約束事として、住民共通の指針である『まちづくり協定』を締結した。また、枚方宿街道菊花祭、「枚方宿ジャズストリート」(ジャズ演奏、オーブニングの和太鼓やよさこい踊り、菊花寄席など)、「枚方宿ガーデニングクラブ」による活動等を行っている。</p> <p>枚方宿と呼ばれる地区は、江戸時代に歴史街道と淀川の水運で栄えた宿場町である。</p> <p>この地区において、かつての歴史的な街並みや賑わい文化を取り戻そうと、地区内の自治会、商店会等によって枚方宿地区まちづくり協議会を設立し、地域の歴史を生かし魅力あるまちづくりを進めている。</p> <p>かつての街並みを取り戻す取組として、平成13年には、伝統的様式の住宅を残し、住宅の建替えの際に、古い街並みに調和した形で修景するということを地区の住民相互の紳士の協定となる「街づくり協定」を締結した。</p> <p>また、枚方宿の活性化を取戻す取組として、菊人形で有名な枚方に根付いている菊文化を取り入れた「枚方宿街道菊花祭」、枚方宿の寺院や店舗でジャズの演奏を行う「枚方宿ジャズストリート」、枚方宿の歴史街道沿いに「市」を催す「枚方宿くらわんか五六市(ゴロクイチ)」を毎月第2日曜日に開催するなど、イベントを通じて多くの方に枚方宿を訪れていただくとともに、枚方宿の情報発信に繋げる事業を行っている。</p> <p>平成19年度からは、枚方宿内で空き家となっている町家を活用する取組として、空き家、空き地などの物件提供者と、枚方宿に居住、お店を開きたい方との橋渡しをする「町家情報バンク」を設立いたしました。情報バンク活動によって、空き家となっていた物件が、有効に店舗などに活用され、同時に改築工事の際に修景を実施することで歴史的景観の向上と、賑わいの創出に繋げる活動を行っている。</p>  <p>枚方宿の風景</p>	<p>地域連 携・地域 おこし</p>	<p>枚方市都 072- 市整備部 841- まちづくり 1221 推進課</p>

<p>肥前町国際交流協会 (佐賀県唐津市)</p>	<p>本市肥前町で、昭和62年の町制施行30周年記念事業として国際交流活動が始った。交流相手国は、主に韓国、それからアメリカ合衆国で、現在までの派遣者総数は681名、受入者総数は1,139名。最近の活動は、1、若ばと交流(韓国釜山市の大学生12名を2週間受け入れての民泊交流)2、町少年の船(韓国金海市の小学生と町内小学生との5日間の相互民泊交流)3、カチカチ交流(韓国ソウル市明知大学の学生10名を2週間受け入れての民泊交流)4、アメリカ交流(町内中・高校生とアメリカ合衆国の中・高校生との相互民泊交流)などを行っている。</p> <div data-bbox="544 365 968 647" data-label="Image"> </div> <p>地元保育園との交流の様子</p>	<p>国際交流 唐津市地 0955- 域振興部 72-9220 地域支援 課</p>
-------------------------------	--	--

平成16年度(第21回) 地域づくり優良事例の概要

受賞団体名	活動の概要	活動内容の分類	問い合わせ先
<p>小樽職人の会(北海道小樽市)</p> <p>http://www.geocities.jp/worldmeister/</p>	<p>平成4年、小樽市内で活躍する職人が、職人技の継承や共同研究開発を目的に「小樽職人の会」を設立。職人展の開催などを通じた全国の職人とのネットワークづくりのほか、小中学生を対象に、起業家意識を養うためのキッズベンチャー塾や職人業(わざ)の制作体験などの取組を進めてきた。また、平成13年には「特定非営利活動法人北海道職人義塾大学校」を設立。職人の養成とともに、職業体験を通じ職業観の醸成を図るキャリア教育や、そのコーディネーターの育成を手掛けるほか、職人業活性化/ノウハウの他地域への伝授など、全道に活動規模を広げ、次代を担う子どもたちにもものづくりの素晴らしさや起業の精神を伝えている。地域の文化・歴史の「語り部」としての重要な役割を担うとともに、地域社会の活性化の担い手として、積極的に活動を展開している。</p>  <p>小学生のキッズベンチャー塾販売体験</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>小樽市産 0134-業港湾部 32-4111 産業振興課</p>
<p>国際家具デザインフェア旭川開催委員会(北海道旭川市)</p> <p>http://www.asahikawa-kagu.or.jp/ifda/</p>	<p>近年の多様化する社会状況の中、「旭川家具」は更に高付加価値化するため「デザイン」に着目し、平成2年、木製家具のデザインコンペを中心とした「国際家具デザインフェア旭川」を初めて開催。将来的にも世界のデザイン情報の発信基地となるために、第1回開催以降3年ごとに、これまで5回フェアが開催され、回を重ねるごとに国際的イベントとして世界の家具デザイナー、関係者に広く認知され、国際的ブランドとしての「旭川家具」の地位を向上させている。表彰事業については、その後、第6回(2005年)第7回(2008年)が開催されている。</p>  <p>デザインコンペ本審査風景</p>	<p>地域産品の普及・促進</p>	<p>旭川市経 0166-済観光部 66-1770 ものづくり推進室 工芸センター</p>
<p>生野町(兵庫県生野町)</p> <p>http://www.city.asago.hvogo.jp/</p>	<p>地域づくり生野塾は住民参加で策定した町の総合計画を実現するために、公募で集まった住民(まちづくり委員、任期2年)と行政の担当職員で組織される。自治会の単位を超えた3つの地域(口銀谷、奥銀谷、栃原)毎に組織され、地域住民は総合計画にある「地域計画」から実施する施策を選択し、施策毎にチームを編成して事業計画の予算要求から実施までを行う。各地域で抱える身近な課題(住宅・ゴミ問題など)を解決するために住民自らが話し合い、その方策を行政に提言したり、また釜山町の町並みの保全を推進するなど様々な地域づくり活動に取り組んでいる。これらの取り組みが、全国で3番目となる自治基本条例の制定につながった。平成17年4月1日をもって、旧山東町・旧和田山町・旧朝来町と合併し朝来市となった。このことにより、旧生野町の施策であった地域づくり生野塾や自治基本条例は一旦消滅したが、その取組みの一部は朝来市のまちづくりに受け継がれ、また新たな展開も見せている。</p> <p>(1) 第1次朝来市総合計画策定時には、公募市民等によるまちづくり市民会議を組織し、分野別に担当職員とともに検討、その結果を基本構想に反映させた。</p> <p>(2) 平成21年度、地域自治の新たな担い手として、小学校区を単位とした自治組織「地域自治協議会」が市全域に設置された。</p> <p>(3) 平成21年3月に、朝来市自治基本条例、朝来市議会基本条例を制定。</p> <p>(4) 地域づくり生野塾を構成していたメンバーは、住民と職員の任意団体「借和倶楽部」として現在も活動を続けている。</p>  <p>栃原はえなあ選手権大会</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>朝来市生 079-野支所地 679-域振興課 5802</p>

<p>横川商店街振興組合・横川商店街連合会(広島県広島市)</p> <p>http://www.e-yokogawa.net/index.html</p>	<p>JR横川駅周辺に広がる商店街が「すみよい活気のある街」を目的に様々な活動に取り組む。地元の町内会等の各団体の他、県内及び島根県の町との連携し、子ども神楽や各地の名産・物産展などの多彩なイベントを展開する「横川ふしぎ市」の開催や、横川が国産乗合バス発祥の地であることから商店街が中心となって「レトロバス復元の会」を結成し、多数の市民の協力を得て復元させ、駅前広場に動くモニュメントとしての展示、またJR横川駅前広場への路面電車乗入れを行政と一体で推進するなど活動する。特にレトロバスの復元の際にはゆかりのあった可部地域との交流を創り出すなど活動のエリアを広げて地域の活性化を実践し、全体的に小売販売額が減少気味の地域において健闘してきた。</p> <p>現在、交通結接点改良工事で乗降客が大幅に増加したJR横川駅周辺に広がる商店街が、「すみよい活気のある街」を目指し、地域と連携し様々なイベントを仕掛けている。毎月第4土曜日には県北・北広島町のみちの駅が産直市を横川駅前広場で開催。2月は復元した国産初の乗合バス(「かよこバス」と命名)を利用した記念イベント。4月には商店街全域を会場に、県内各地の物産や子供神楽を招聘し、地域諸団体がイベント参加する「横川ふしぎ市」を開催。6月はサンフレッチェ広島と連携した「スタンプラリー」実施などと多彩なイベントを繰りひろげている。</p> <p>「かよこバスの活用」「サンフレッチェ広島との連携」「アーティストに優しい街」を3本柱に、交通の利便性を生かした個性と活力のある街造りに取り組んでいる。</p> <div data-bbox="534 564 970 851" data-label="Image"> </div> <p>レトロバス完成披露パレード</p>	<p>商店街の活性化</p> <p>広島市西 082- 区役所区 532- 政振興課 0927</p>
--	---	---

<p>中川をよくする会 (高知県土佐山村)</p>	<p>村の3つの地区の住民が主体となって平成3年度に開催した「嫁石梅まつり」の成功を機に地域づくりへの関心が高まり、外部からアドバイザーを招いてワークショップ等を住民主体で開催し、その成果を平成7年度末に「中川地区開発基本計画書」として取りまとめた。この運動は行政を動かし、住民の数々のアイデアが活かされた地域の交流拠点施設「オーベルジュ土佐山」の建設につながる。「オーベルジュ土佐山」は「何も無い」をコンセプトに非日常を体験できる施設として訪問者に人気が高く、地域の住民も地元食材による食事の提供など施設の魅力づくりに積極的に協力する。またこの外にも登山道整備やホテルの幼虫の放流などの地域の自然保全、嫁石梅まつり・四季を食する会等の各種イベントの開催、鳥取県などの村外各団体との交流などの地域づくりを実践してきた。</p> <p>中川をよくする会は平成8年に設立された地域づくり団体で、過疎高齢化によって活力低下が進む地域を都市と農村との交流などを通して活性化しようと、地域住民を巻き込んだ活動を行っている。</p> <p>主な活動は、①宿泊・温泉施設「オーベルジュ土佐山」を拠点に農業・農村の再生に取り組む、②梅まつりやほたる祭りなどの交流イベントを通して地域の集客力を高め、直売所を運営する(有)中川開発やオーベルジュ土佐山を側面からサポートする、③地域づくり活動を通して地域住民、特に子ども達に地域のすばらしさを知ってもらう、ことなどを重点に置いた取組となっている。その介あつてか、年間を通して県内から大勢の利用者が訪れ、地域唯一の経済基盤となった。</p> <p>しかしながら、地域の高齢化にまでは歯止めがかからず、地域の担い手の育成やオーベルジュ土佐山などの施設を持続的に運営していくための仕組みづくりなど課題は山積したままで、中川をよくする会の役割が大きくなっている。</p>	<p>地域連携・地域おこし</p>	<p>高知県農 088- 林水産部 895- 土佐山地 2311 域振興課</p>
		<p>イベント「名月の夕べ」風景</p>	
<p>柏崎演劇団体連絡会 (新潟県柏崎市)</p>	<p>市民に潜在的な演劇志向者が多い土壌を活かし、演劇を志す子どもの育成を目的に柏崎市は演劇団体の協力を得て、「小学生のための夏休み演劇教室」を開講した。これをきっかけとして、市内の演劇団体同士の連携を図り、演劇教室の指導を行うなどのために平成9年、「柏崎演劇団体連絡会」を結成した。シナリオから台本まで子ども達の意見を尊重し、大道具の製作も子供達自らが行うなど、演劇そのものを知ってもらいながら演劇の楽しさを伝えている。平成14年に地域の先人達の資料を展示した「ふるさと人物館」が開館するにあたり、4人の先人達の活躍を演劇とするために、2年間子ども達と練習を行うなど、地域に根付いた活動を展開している。現在は、毎年、「小・中学生演劇教室」を支援し、劇づくりを通して、子どもたちから心豊かな情操と表現力を育てている。</p>	<p>文化・歴史資源の継承・利活用</p>	<p>柏崎市総 0257- 企画画部 23-5111 文化振興 課</p>
		<p>人物伝演劇フェスティバル</p>	

<p>美山町(京都府美山町)</p> <p>http://www.city.nantan.kyoto.jp/</p>	<p>「日本の原風景を残す町」として、自然環境とかやぶき民家の町並み保全に力を入れ、平成5年度に「美しい町づくり条例」を制定。実践団体として発足した美山町環境保全対策協議会は、住民団体や各集落代表で組織され、①水質保全対策②不法投棄対策③ゴミ減量の3部制を敷き、町内一斉クリーンデーや環境パトロール、各種研修会などを実施する。その結果、住民の環境意識も高まり、各活動への積極的な参加や地域あげでの河川美化など着実な成果を上げており、重要伝統的建造物群保存地区「北集落」を中心としたかやぶき民家の保全活動と相まって、美しい自然と素朴な農村風景の維持による地域づくりを実践してきた。</p> <p>美山町は、平成18年1月に合併し、南丹市となった。しかし、現在も「日本の原風景を残す町」として、自然環境とかやぶき民家の町並み保全に力を入れ、平成5年度に制定した「美しい町づくり条例」も「南丹市美しいまちづくり条例」として継承している。当時、実践団体として発足した美山町環境保全対策協議会も合併後も、住民団体や各集落代表で組織され、①水質保全対策②不法投棄対策③ゴミ減量の3部制を敷き、町内一斉クリーンデーや環境パトロール等を実施している。その結果、継続して住民の環境意識も高まり、各活動への積極的な参加や地域あげでの草刈や河川美化など着実な成果を上げており、重要伝統的建造物群保存地区「北集落」を中心としたかやぶき民家の保全活動と相まって、美しい自然と素朴な農村風景の維持による地域づくりを実践している。</p> <p>さらに、その後、美山産管学公連携協議会が組織化され、景観・環境保全の部会が創設され、より一層の保全活動を展開している。</p>  <p>35棟のかやぶき民家を残す北集落</p>	<p>環境資源の保全・活用</p>	<p>南丹市美山支所地域総務課 0771-68-0040</p>
<p>百姓王国(岡山県吉備中央町)</p>	<p>各農産物の生産者を「白菜大臣」「米大臣」などに任命し、各大臣の似顔絵看板の地域内への設置や百姓王国マップの作成するなどユニークに取り組みを実施する。また地域内に体験施設や宿泊施設を整備したことを機に、県内外からの修学旅行生や海外の方々を積極的に受け入れ、100以上の豊富な生産品目のある百姓王国内での四季を通じての農業体験などのプログラムを充実させた。これらの取り組みにより都市の住民は楽しく農業とふれあう機会を持つことができ、一方農家も楽しく農作業できるなど、都市と農村・産地と消費者との交流を中心とした地域づくりが活発に行われてきた。</p> <p>現在、地域ブランド化を目指し、地域ぐるみで営農組織をユニークな名称「百姓王国」に命名し、各基幹作物リーダーを大臣として、グリーンツーリズムや様々な学習体験、生活体験の受け入れの場として提供し、地域の人・物的資源を最大限に利用した第6次産業化に向けた農業を楽しんでいる。</p> <p>主な取り組みとして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百姓王国を体験の拠点とし、県内外各種団体や学校の総合学習の農業生活体験の受け入れ ・町内各種イベントの出店・都市と農村の交流 ・道の駅や岡山市産直店への出荷販売 ・その他観光客や視察研修者の受け入れ・県外地域間の交流 <p>などを行っている。</p>  <p>親子でもちつき体験の様子</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>吉備中央町協働推進課 0866-54-1301</p>
<p>(株)福田農場ワイナリー(熊本県水俣市)</p> <p>www.fukuda-farm.co.jp</p>	<p>昭和43年に県内初のみかん狩り観光農園として設立し、昭和62年に「(株)福田農場ワイナリー」となる。水俣の気候から「スペイン村構想」を打ち出し地域に多くの観光客を誘致するため、地元の甘夏・デコポン等から作るワイン等の開発や地ビールの製造、地元魚介類を使用した料理が楽しめるレストランの経営などの地元産品を活用した事業展開を行う。地域づくりに関しても農場は積極的に関わり、現在水俣市が進めている水俣病を正しく認識してもらう取り組みでも環境学習施設として活用されたり、農場が中心となって「環不知火環境園」を構築し、循環型社会の実現を目指すなどの活動を推進している。</p>  <p>レストランの「パレンシア館」</p>	<p>都市・農村交流促進</p>	<p>水俣市総務企画部企画課 0966-61-1606</p>